

釧路石炭火発、日本製紙発電所を

2030年(私の提案)、遅くても
2035年(IEAロードマップ)までに

廃止を提案

12月3日、市議会一般質問で、村上かずしげ議員は、地球温暖化について質問。二酸化炭素の最大の排出源となっている石炭火発に関し、市内にある釧路石炭火発と日本製紙の石炭火発を期限を明確にして廃止することを求めました。



釧路石炭火力発電

COP26で日本は石炭火発に固執しているとして、不名誉な「化石賞」を受賞しました。

CO₂
2030年まで50から60%
削減は世界への責任

いま、世界が一番に求めていることは、2030年までに二酸化炭素の排出量を大幅に減らすことです。これなしに温暖化は止まりません。

村上議員は、市の2030年までの二酸化炭素の削減目標を質問、市は「26%」と答えました。これでは責任は果たせないと批判、村上議員は「60%削減という野心的な目標を掲げて推進すべき」と強く迫りました。

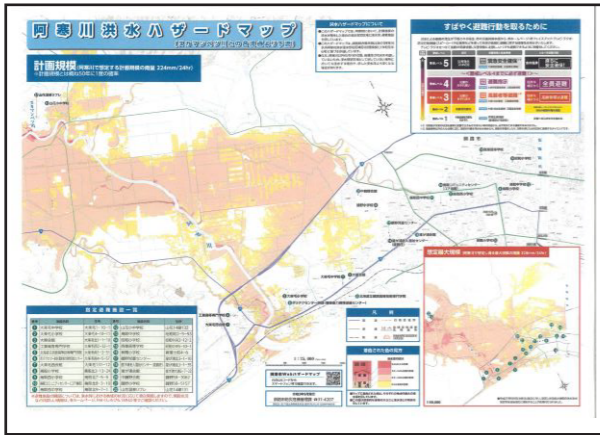
阿寒本町地区の洪水ハザードマップ作成へ大きく前進

11月の大雨による阿寒川の冠水や、洪水対策についても質問しました。

①河川改修と当面の浚渫など

阿寒本町地域の河川改修はあと10年以上かかります。工期の短縮と、土砂の浚せつや河川敷の樹木の伐採などを道に要請するとの答弁がありました。

大楽毛地域の洪水ハザードマップ



②水位周知河川に

大楽毛では作成されている洪水ハザードマップが阿寒町にはありません。村上議員の質問に、ハザードマップの前提となる本町地区などの阿寒川上流部と舌辛川が、「水位周知河川」に来年度指定される見込みと答弁。水位周知河川の指定がはっきりしたことで、洪水ハザードマップ作成が大きく動き始めます。

IEAロードマップに従えば

国際エネルギー機関(IEA)、日本を含む先進国の多くが加盟)は、地球温暖化ストップのロードマップを示しています。柱は石炭火発の廃止、自動車の脱二酸化炭素化、建築物の温暖化防止です。村上議員はロードマップに基づき、市の施策を質問しました。

●市内の二つの石炭火発の廃止については、「既存の火発の脱二酸化炭素化と岸田首相は言っている。釧路火発は二酸化炭素の坑道封じ込めの実験もしている」と答弁、石炭火発を止める考えは全くありませんでした。

●新たな公共施設にはすべて太陽光発電を設置するよう質問。市は補助金の活用など各課で個別に検討すると答えるのみ。

●市の公用車については、特殊車両を除き、全て次世代型にすることは約束しました。

